

樹木札取り付けについて

植栽委員 山崎茂男

木は人間と同じように生き物です。人間のように自ら動けないけれど、地中から水分や栄養をとり、葉を繁らせ実をならせ寿命が尽きるまでその場所で生きていきます。

シーアイハイツは他の団地やマンションと比べて緑豊かな環境にあります。これはシーアイハイツの貴重な財産の一つです。私はシーアイハイツ最初からの住人ですが、朝は「ちちっち」という鳥の声で目を覚まします。昼は広場で子どもたちの元気で賑やかな遊び声が聞こえてきます。夜は街灯に照らされて木々の葉っぱが光って風情のあるたたずまいを見せてくれます。夏は広場の緑の木陰に涼を求め、冬は北西の強い風を和らげてくれるなどいろいろなところで樹木からの恵みを感じています。

シーアイハイツ内で犬と散歩やウォーキングをする住民をよく見かけます。遠くの樹林公園に行かなくても新鮮な空気が吸うことができ、季節ごとの花木を愛でることができます。住民の中に高齢者が増えてきた中でこうした環境を保持できていることは住民および管理組合・関係者の努力のたまものだと思います。

しかし、シーアイハイツも30年余経つと、成人した子と同様に課題も増えてきました。特に高木となった木の側にある駐車場の車への鳥の糞・落ち葉、枯れ枝落下、陽当たりが悪くなった、葉が茂り過ぎ防犯上よくないなどです。こうした意見や苦情に対しては植栽委員会が予算の範囲内で木の伐採、剪定（茂り過ぎた枝先を切り詰める）、強剪定（伸びた枝を思い切って短くする）などで対処しています。

課題の多いのは高木（3M以上）です。植栽委員会に出席しても、私には問題のある木がどの木なのかよくわかりませんでした。樹木台帳（樹木番号と樹木名記載）が管理セン

ターにあります。見たことはありませんでした。植栽委員になり、はじめて樹木台帳をめくるようになりました。

今期植栽委員会は伊藤委員長のもとで5つの作業部会を設けました。そのひとつのSSN（主として広報を担当）は、樹木情報の共有化、ボランティア意識を高めるなどを目的に活動しています。第1段階として、課題の多い東側と北側（ホンダ側）駐車地域の高木に樹木札（樹木番号と樹木名記載）を取り付ける試みを始めました。過大な費用をかける必要はない。取付作業は業者（TGS社）さんに任せて、植栽委員会ですることができることは我々の手でということ。材料（卵形のプラスチック札、針金、ペイントマーカー）などを揃えました。樹木台帳にある樹木番号と樹木名を委員が分担して手書きし、それを業者さんに108本取り付けてもらいました。

これからも課題のある地域を選び、準備をして順次、樹木札が取り付けられればと思います。

